

2018年5月15日

フリーゲージトレイン開発推進に向けて

当社は、フリーゲージトレインの実用化に向けて開発を進めてまいります。

6月22日付 役員の異動にあわせて、当社総合研究所にフリーゲージトレイン開発推進担当役員を就任させる予定です。

今後、国土交通省とも相談させていただきながら、他の鉄道事業者や鉄道車両メーカーなどとともに、フリーゲージトレインの実用化に向けた検討を進めていきたいと考えています。

1. フリーゲージトレインの当社における意義

- (1) 当社は、これまでも東海道新幹線の開通を契機に、新幹線の接続駅である京都・名古屋から奈良や伊勢志摩などの観光地に向かう特急ネットワークを構築してまいりました。
- (2) 一方、当社はその歴史的経緯から軌間の異なる路線を抱え、特急ネットワークにおいて乗り換えを必要とする場合がございます。
- (3) フリーゲージトレインが実用化すれば、レール幅の異なる路線を乗り換えいただくことなく直通運転できることとなり、お客さま利便の向上、ひいては当社のネットワークの価値向上につながります。

2. フリーゲージトレインの検討対象路線（京都駅から吉野線）

(1) 吉野線の位置づけ

当社吉野線は、(2004年に認定された)世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にある“吉野山”や、“飛鳥”などの観光地を抱え、多くのお客さまをお迎えしています。

当社では吉野エリアを重要な観光の拠点であるにとらえ、大阪市内の南大阪線 大阪阿部野橋駅から吉野駅まで観光特急“青の交響曲(シンフォニー)”をはじめ、特急列車などを直通運転させております。

(2) 現在の運行形態

新幹線との接続駅である京都駅から吉野線にお越しいただくには、途中、レールの幅が変わるため、橿原神宮前駅での乗り換えを必要としています。

(3) これまでの経緯

橿原神宮前駅での京都線・橿原線(標準軌 1,435mm)から吉野線(狭軌 1,067mm)への直通運転は、以前からさまざまな解決方法を模索してきました。

(軌間の統一、三線軌条など。)

(4) フリーゲージトレインの効果

フリーゲージトレインが実用化すれば、京都駅から京都線・橿原線を経由し、橿原神宮前駅からレール幅の異なる吉野線を経て、吉野駅まで直通運転することが可能になります。

これに伴い、当社の特急ネットワークの全路線において直通運転が可能となります。

首都圏とつながる新幹線と、大阪・京都・奈良・名古屋・伊勢志摩・吉野などの各観光拠点が直通運転でつながることで、大きな荷物を持つインバウンドのお客さまをはじめ、快適かつ便利に鉄道の旅をお楽しみいただくことができるようになります。

※ フリーゲージトレイン（軌間可変電車）とは 標準軌 1,435mm と狭軌 1,067mm など、異なる軌間（ゲージ）を直通運転できるよう、車輪の左右間隔を軌間に合わせて自動的に変換する電車である。（国土交通省資料より引用）

以上